

平成24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立伏虎中学校
校長氏名	明 渡 大 承
作成日	平成25年2月27日

1 教育目標

活気に満ちた伏虎中学校 — 美しく、仲良く、静かで、活力ある学校 —

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の人から信頼される学校づくりをめざす。 多くの保護者に学校の様々な活動を参観していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かい生徒指導を行う。 校外学習、学習発表会などの学校行事の充実を図る。 進路指導を計画的にすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が授業に集中できる環境をつくる。 指導方法の工夫改善を図り、学力向上に努める。
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ホームページをはじめ、あらゆる機会に学校の平素の活動についての情報を提供する。 朝の玄関前でのあいさつ運動を継続する。 子どもに関わるすべての問題には迅速に対応し、家庭との連携を密にし、関係機関の協力を得ながら対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部から講師を招いたり、キッズサポート、交通マナー、喫煙防止、非行防止等多くの指導を行う。 行事は、できるだけ生徒に運営をまかせる。 1年時より3年間を見据えた進路指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の10分間の読書タイムを確保し、落ち着いた雰囲気をつくる。 1・3年生において、英語の少人数指導を充実させる。 特別支援教育コーディネーターを中心に、個々の生徒理解・指導について職員の共通理解を図る。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りやホームページ等を通じて情報を発信しているが、保護者の手に届いていない状況がある。 玄関での毎日のあいさつは、一般の人々からもかえってくるようになり、やりがいがあった。 問題の発生と同時に各方面に連絡がいくように取り組んでいるが、十分とはいえない面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の指導は生徒にとって新鮮な面もあり、十分成果を得られたと思う。 行事の運営は、生徒会中心に各担当の先生のアドバイスでそつなくこなせた。 各学年で工夫を凝らし、将来を見据えた指導を行っていると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書タイムは、静かな環境の下、実施されている。 英語科の少人数指導は生徒の活動も活発に行え、今後も引き続き継続させていきたい。 特別支援学級の個々の生徒の状態を理解しながら、個に応じた指導を継続して実施していきたい。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒の家庭に学校からの情報が伝わる手段を考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒理解をより一層深め、余裕のある生活が送れるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の維持継続に努め、わかる授業、生徒の活動の場が多くなるような授業を工夫していきたい。

3 その他の課題

平成29年度の小中一貫校に向けて生徒のみならず教員の交流も進めていく必要がある。また、生徒数の減少による学級数の減、それに伴う教員数の減で学校運営が難しくなっている。